

# 一般質問



放課後子ども教室を金丸小に開設

## 新年度予算について

質問(高野礼子議員) 新年度予算の考え方について伺います。

答弁(市長) 平成二十三年度予算につきましては、「新大田原レインポーランド」の将来像「住む人が輝き 来る人がやすらぐ 幸せ度の高いまち」を目指すとともに、市民一人ひとりが主役となる住みよいまちの実現を目指して、市民の皆様にとくさんの幸せ感が届くように配慮いたしました。特に明日を担う子供たちのための教育等の施策や、市民の健康

や命を守ることに配慮するとともに、市政刷新に向けた新規施策はもちろんのこと、少子高齢化社会に対応した総合的な地域福祉施策の展開、市民生活に密着した生活関連、社会資本の整備を進めます。さらに地域資源、人材を生かした産学官連携によります産業振興や資源循環型社会の構築等の環境施策、景気対策、雇用の確保、ベンチャービジネス起業支援を進めます。

また、合併に伴う地域間格差の

解消等 将来を見据えた諸課題にも的確に対処するとともに、新たな行政事業にも積極的に取り組むこととし、限られた財源の重点的・効率的な配分に徹して編成したところであります。その結果、平成二十三年度一般会計予算の総額は二百九十四億円で、対前年度比4.7%増の積極型予算となりました。

なお、財政の健全性の確保に留意をしつつ、第二次大田原市行政改革大綱に基づき、経常的経費については枠配分方式により、前年度以下として経費の節減に努めるとともに、人件費の抑制や事務事業の見直しに努めたところであります。

## 合併特例債について

質問(森泰久議員) 平成二十七年までの合併特例債の発行について伺います。

答弁(市長) 本市では三市町村合併後、美原公園陸上競技場整備事業、黒羽統合中学校整備事業、保育園統合整備事業、学校施設耐震化事業、大田原赤十字病院建設費補助金、社会資本整備総合交付金事業、道整備交付金事業などの合併特例債事業を実施し、平成二十三年度末時点での合併特例債発行見込総額は三十八事業で百五十二億

一千五百万円となります。合併特例債発行可能額が二百五十五億七千万円でありますので、残りの発行可能額は百三億五千五百万円ということとなります。

今後の合併特例債事業は、この発行可能額の範囲の中で、平成二十七年までの期間に新市建設計画に盛り込まれた事業を中心に実施していくこととなります。具体的には中心市街地活性化事業や都市計画道路3.3.2号大田原野崎線整備事業のほか道路交通安全施

設等の社会資本整備総合交付金事業、大田原小学校及び紫塚小学校校舎増改築事業等が主な事業となる見込みであります。学校施設、公園や道路などの公共施設を整備するために行う起債はやむを得ないものと考えておりますので、いかに有利な地方債を確保して、適切な範囲の中で事業を実施していくことが重要なことであると考えております。

今後とも有利な合併特例債の活用につきましては、対象事業を厳しく選別するとともに、必要があれば事業計画の見直しも行いながら、適切な償還計画のもと、財政健全化計画に基づいた財政運営に心がけてまいります。



工事が進む市道宇田川佐良土線